



Group C

兼目真生
Maiki Kenmoku

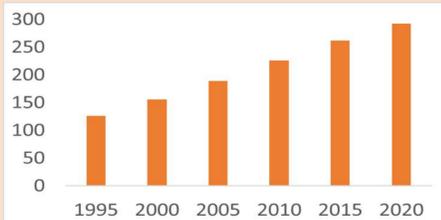
瀬川輝
Hikaru Segawa

古川航気
Kouki Furukawa

山崎健成
Kensei Yamazaki

背景

認知症患者数の増加



出典：厚生労働省 (http://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail_recog.html)

認知症重度化の原因 [1]

- ▶ 老化に伴う心身の虚弱化
- ▶ 認知症の中核及び周辺症状 (BPSD) の進行

治療方法

- ▶ 薬物療法
- ▶ 非薬物療法
 - 芸術療法
 - 作業療法
 - 回想法
 - 認知症セラピー

アニマルセラピー

- ▶ 動物との交流によってもたらされる精神的な影響を生かした療法
- ▶ 噛み付きや飼育の負担、感染症などの問題

ドールセラピー

- ▶ 人形を用いて感情を刺激し、認知症の進行を抑制する療法
- ▶ 人形は動かないため、患者からの一方的なアクションになってしまう

ロボットセラピー

- ▶ ロボットとのコミュニケーションで認知症の進行を抑制する療法
- ▶ 高価で導入しにくい

期待する効果

- ▶ 3種のセラピーを複合的に行うことで認知症抑制効果の増大
 - 可愛い動物のぬいぐるみを使用 (アニマルセラピー)
 - 抱くことができる (ドールセラピー)
 - アクションをする (ロボットセラピー)
- ▶ 各種セラピーの問題点の解決

認知症の進行抑制

[1] 公益社団法人 認知症グループホーム協会 (2013). 認知症グループホームにおける利用の重度化の実態に関する調査研究報告書

提案

高齢認知症患者とお話するぬいぐるみ



目的

- ▶ 認知症の進行抑制

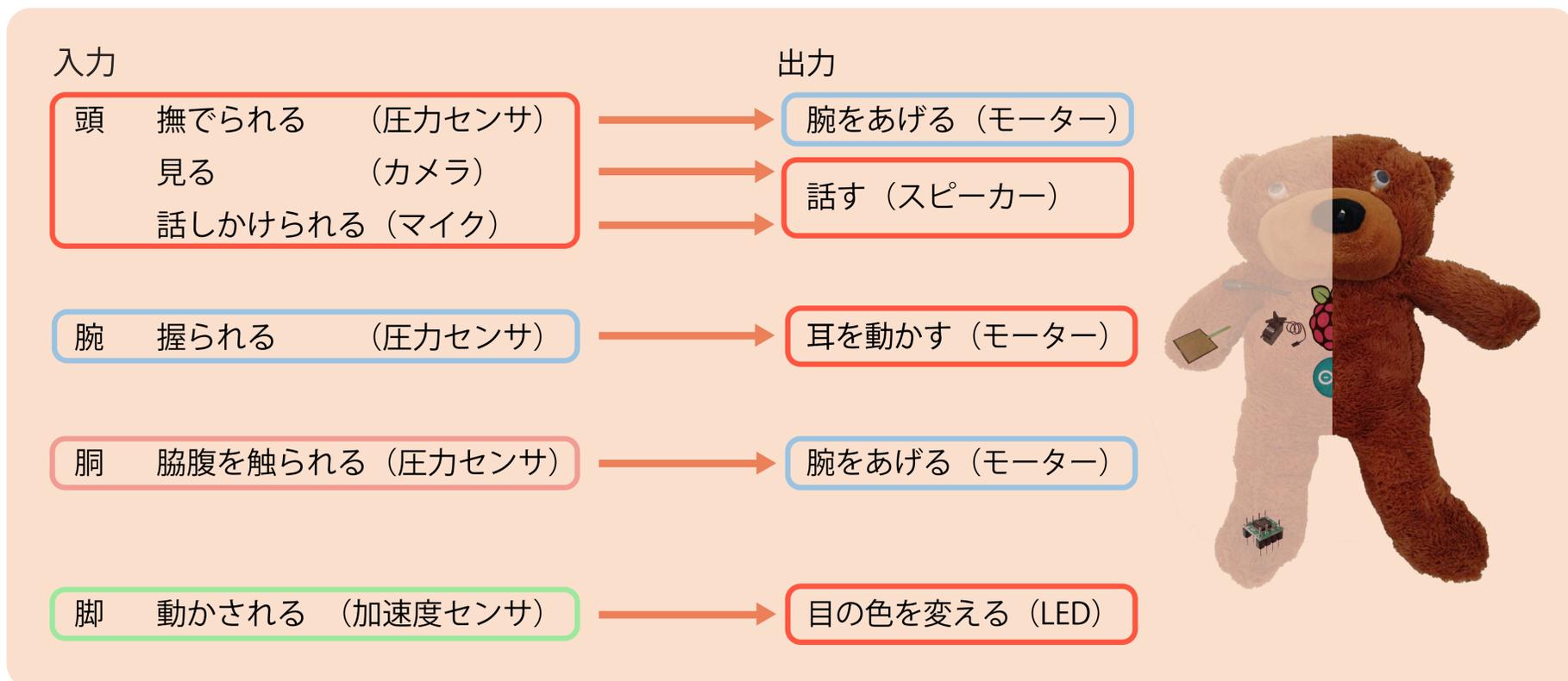
対象

- ▶ 高齢（65以上）の認知症患者
- ▶ 会話ができる、寝たきりではない

ラズによって実現可能なこと



ラズの機能



今後の展望

ユニット化

ぬいぐるみだけでなく、認知症患者のお気に入りのものに導入



精度向上

顔認証・音声認識・センサ類の精度の向上によるぬいぐるみの改善



ログの活用

「どのセンサがよく使われているのか」などの情報を取得し、改善に役立てる



評価実験

グループホームで評価実験を行い提案手法の有用性を証明

